

保護者様

長崎市立形上小学校

校長 松尾 真由美

学校評価アンケート結果について

春暖の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。日頃より、本校教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、学校評価アンケートについては、お忙しい中にご回答いただき、誠にありがとうございました。アンケートの集計が終わり、学校運営協議会を終え、対策等の見直しを行いましたのでご報告いたします。

結果については今年度の教育活動の効果等を振り返る貴重な資料とし、今後の教育活動に生かしてまいります。

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	96%	98%	100%	学校経営の肯定的割合は、大変高い割合を有している。教育目標の理解を一層進め、よりよい学校経営へつなげていく。 業務改善については、行事の反省集約をもとに更に業務の改善及び行事の精選を徹底していく。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	91%	98%	100%	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100%	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100%	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	98%	89%	100%	「教職員は悩みや相談に親身に対応している」については、児童の視点から見ると昨年度同様、高い評価である。今後も一人一人に寄り添い、対応していく姿勢を職員間で共有し、指導・支援にあたっていく。 平和教育に関しては、学校内での実践及び児童へ平和意識の浸透が高い割合であるが、保護者への情報公開が不十分であったため、学校便りやHPでの保護者への情報提供を図る。 「あ・は・は運動」については、昨年度同様、保護者への十分周知できていないことが結果として表れている。特に挨拶に関しては、今後の重要課題のひとつとして学校上げて取り組んでいく。
		挨拶をよくしている	91%	76%	89%	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	100%	82%	100%	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	94%	87%	100%	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	96%	91%	100%	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	98%	93%	100%	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	98%	82%	100%	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	94%	96%	100%	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	96%	93%	89%	「伝統や校風の実態に即した教育」については、昨年度に引き続き、児童からの評価が高い。地域の歴史や特性を生かした学習が充実していることの証だと捉える。それに比例して郷土愛への評価も高い割合である。 家庭学習の習慣化は7ポイント増で大幅に意識が高まったが、今後も内容と質を一層考慮した取組を継続して進めていく。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	93%	98%	89%	
		家庭学習の習慣が身に付いている	98%	84%	100%	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	83%	96%	75%	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		94%				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	96%	96%	89%	保健衛生に関しては、今年度も学校保健委員会を3回開催し、保護者との連携・共通理解を図っており、今後も継続していく。基本的な生活習慣に関しては、保護者の意識は向上しているものの、児童は5ポイントも低下していることから、家庭と連携しながら児童への啓発を引き続き行っていくことが課題である。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	78%	87%	88%	
		体力向上に努めている	93%	91%	100%	
	食育	食に関する教育活動を行っている	94%	91%	100%	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	96%	96%	100%	今年度は150周年記念事業と関わった中で、育友会や地域とは早めの情報共有を図りつつ、できる範囲で、連携・協力しながら進めていくことができた。教職員の研修については、全体での研修を計画する中で、学校全体が充実する内容を精選して実施していく。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	74%	91%	100%	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	96%	96%	100%	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			78%	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	98%	91%	89%	教職員の視点による評価は、まだ十分とはいえない状況であることを踏まえ、物的環境の整備を進めつつ、働き方改革の具体的な方策の実践を進める。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			89%	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○肯定的評価が、児童平均値93%、保護者平均値91%、教職員平均値95%と全体平均値も90%を超えていることから、学校経営についておおむね評価されていると捉える。

○昨年度と比べると保護者の肯定的評価の割合が若干向上している。昨年度の課題への対応策を実践することで、その効果が少しずつ表れてきた結果だと考えられる。また、職員と保護者が情報を共有し、協力しながら児童への指導・支援を行ってきたことも要因であると考えられる。

○「心の教育」において、学校だよりで毎月お知らせするなどの対策をとったものの「『あ・は・は運動』を知っている」の保護者視点の項目が他に比べると依然として低い。保護者からは地域での児童の挨拶が少ないとの指摘も挙がっており、職員間でも対応策を協議し、学校全体の大きな課題として取り組みたい。

○「確かな学力」では、学力向上に向け、ICT機器(AIドリル)を活用した授業や職員研修を生かした授業改善が日々図られている。また、昨年度の課題であった家庭学習の習慣化への評価についても向上が見られ、ICT機器やAIドリルを活用していることの成果が見られた。今後もICTを活用した授業と家庭学習の連動性を更に高める取組をしていくとともに、個に応じた指導を充実させていく。協働的な学びについては、職員の共通理解が十分にできていなかった。そのため学校全体として、協働的な学びで児童にどんな力を身に付けさせたいかという視点が明確でなかった。次年度は、どのような協働的な学びを取り入れることで、児童のどのような力が身に付くかを職員間で共通理解するために校内研修の充実を図る。

6 学校関係者評価

【学校運営協議会において】

- どのような児童に育ててほしいか
- ・いろいろなことを受け流せる子(柔軟に・やさしく・強く)
- ・本をたくさん読んでほしい。
- ・元気な挨拶。子どもからしてほしい。
- ・形上の児童は横断歩道を渡った後、止まった自動車の運転手に頭を下げている。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○昨年度に比べ、児童においては「あ・は・は運動」が100%周知できたことは大きな成果である。保護者にはまだ十分に浸透していない。まずは職員が校内での「あ・は・は運動」への取組意識を高め、児童が日々実践していることをPDCAサイクルで見つめ直すことで、家庭へ周知・徹底していくことを全職員で共有する。

○学力向上に向けては、教師一人一人の授業力を高めるために、校内研修の充実を図ることが急務であると考えられる。AIドリルを有効活用することで一律の学習時間から脱却した個別最適学習へシフトすることを推進しつつ、普段の授業において、課題意識を高めるような「めあて」と「まとめ」を取り上げ、問題解決的な学習展開に日々努めるとともに、個に応じた指導を丁寧に行っていくことができる授業作りの研修や児童の学びを深めるためにICT活用を実践するための現職教育を行うことで、授業改善を図り、学力向上につなげていく。

○本校では、学校サポーターや地域の方々との専門性を生かした教育活動(筆や生け花、花の苗植え活動、竹灯籠作り、昔遊びなど)を行っている。これらの活動を通して豊かな情操が育まれている。また今年度、学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティ・スクールとして今後も地域・家庭の力を借りて教育活動の充実を図っていく。また、こうした活動を学校ホームページや学校だよりなどを通して発信していく。